# FLYING FISH

高知工科大学ニュースレター

フライングフィッシュ

64

2015 AUTUMN

## 風景をツクル景観デザイン

## SHIGEYAMA YOICHIRO

Architecture of infrastructure and environment create rich Landscape and intimate various space.

# 長く愛される
# 豊かな風景を生み出す
# 「景観デザイン」のチカラ

フライングフィッシュ インタビュー
FLYINGFISH INTERVIEW

## その地に最適な環境をつくるのが景観デザインの役割

私たちの暮らしを支える道路、鉄道、橋、ダムなどのあらゆる社会インフラ。これらはすべて“土木”の力でできている。土木工事は公共事業となることが多く、税金の無駄遣いという批判もあるが、安心安全な暮らしの実現は、土木なくしては語れない。

システム工学群の重山陽一郎先生は、教員として学生を指導するかたわら、土木構造物をデザインする景観デザイナーとして全国各地で活動する。教育者とデザイナーの二足のわらじを貫くことが重山先生のこだわりだ。

「学生たちは、自分でデザインをしない人にデザインの勉強を教えてもらおうという気持ちにならないですよね。実践者であり続けることで、説得力が生まれるのだと思っています」

例えば、宍道湖に沈む夕日を眺める名所として知られる島根県松江市の岸公園。重山先生はこの公園の設計に携わり、国、県、市の３つの主体が絡む場所を一体的な空間として整備。市民や観光客に心地よい水辺を開放した。

「周りの風景をすべて考慮した上でどうするか、というのが景観デザインの肝心なところ。岸公園では建物、土木、水面、山並み、夕日という広い範囲のものを一つのまとまった風景にすることができました。景観デザインの理想的な形ですね」

最近では、岸公園のそばに新たに整備された水門を設計。“目立たせないこと”をテーマとして景観に配慮し、高い門柱が不要な形式を採用した。湖の増水時にはゲートを閉じて市街地の浸水被害を防ぐという機能を持ちながら、周辺の眺めは整備前とほぼ変わらない。

「“その場所で一番大事なことは何か”と常に考えています。岸公園では、夕日がどれだけきれいに見えるのかということ。そこから、この場所に最適なデザインを導き出しています」

風景にすんなり溶け込むことが土木のデザインの要。一見何の特徴もないように見えても、居心地がよかったり、気持ちが落ち着いたり。人に意識させることなく、自然と受け入れられる環境づくりが、景観デザインの真骨頂と言えよう。

## デザイナーのセンスと知見が美しい景観を守ってきた

重山先生は東京大学の工学部土木工学科出身。昨年まで本学の理事長を務めた岡村甫先生の研究室に在籍していた。しかし、ひょんなことから、卒論は当時農学部の助教授だった景観デザインの第一人者、篠原修先生の指導を仰ぐことになったという。

「実は当時、文房具のデザイン会社でアルバイトしてたんです。勝手にそこの内定をとってきて、就職担当の先生に『ここに行きます』と報告したら、『内定取り消して来い！』と言われまして（笑）。そして岡村先生からは『デザインやりたいなら、農学部の篠原先生のところに行って来なさい』と。そんなことで、土木工学科に籍を置きながら、卒論は篠原先生にお世話になり、景観をテーマに書いたんです」

岡村先生のひと声で、重山先生は景観デザインの道に進み、今に至るというわけだ。卒業後は、景観デザイン分野の先駆け的存在であるアプル総合計画事務所に就職。土木工学科ではデザインの授業は一切なかったため、就職して初めてデザインのイロハを学んだ。

「最初はひたすら図面のトレースをやってました。図面は紙と鉛筆で描いていたので、コピー＆ペーストも写経のようでしたね」

そんな地道な努力が身を結び、入社一年目で、東京の皇居周辺道路の景観整備という一大事業の設計を任される。それ以降、松江市の岸公園をはじめとする全国のさまざまな現場を担当し、力をつけていった。そして入社６年目に、岡村先生から声が掛かり、97 年の開学と同時に本学に着任することになる。

開学からこれまで、本学の景観には、重山先生のデザイナーとしての知見がフルに生かされてきた。その代表的なものが、レンガ造りのキャンパスの雰囲気に合わせた地下駐輪場。自転車が自動的にレールの上に乗って、地下へ運ばれるという一連の仕組みが、ガラス越しに見えるようにデザインされている。

「工科大だからこそ、最先端の技術を学生たちに見てもらえるようにデザインしました。この場所にある意味を考え抜いた結果です」

またこんな話もある。グラウンド横に建つ鉄製のナイター用照明ポール。当初はコンクリートの柱になる予定だったが、その話を聞いた重山先生が「ちょっと待った！」と言わんばかりに、担当者を説得。キャンパスに調和した緑色の鉄の柱に変更してもらったという。

「グラウンドを明るくするという目的だけ達成しようと思ったら、どんなデザインでもいいんです。でもそこを考えるのと考えないのとでは、後々大きな違いが出てきます」

風景の中でバランスよく存在する構造物は、その地で人々に長く愛され、育っていく。本学の風景と調和した美しい景観が維持して来られたのも、重山先生の力が大きい。

## 土木のデザイン教育で日本の風景によりよい未来を

戦後、早急な社会基盤整備が求められ、実用性だけを重視したことから、土木にデザインは必要ないという考え方が今も根強く残っている。その一方、生活に豊かさを求める時代にあって、景観デザインへの関心は高まりを見せている。

「宮島の厳島神社なんて景観デザインそのものです。平清盛によって造られた平安時代にはすでに、建築と風景をひっくるめてデザインするという思想はあったんですね。長くその地に残り、暮らしに寄り添うものだからこそ、土木のデザインの役割は大きい。戦後の景観デザインの断絶を回復するためにも、土木のデザイン教育が大切なんです」

重山先生は景観デザインに関わる演習の授業を一貫して担当。まずはスケッチと模型を一から徹底的に指導し、３年生の授業では、“高知市の中心市街地にある中央公園の周辺一帯をリニューアルせよ”という難題を課している。

「課題の規模が大きすぎるのは承知の上なんですが、橋と公園と建物という広い範囲のことを一度に考えることにこそ価値がある。当然すべてを考え抜くことは不可能で、綻びが目立つ、ボロボロの成果品が出てきますが、それで一向にかまわない。綻びの繕い方は今後教えてくれる先輩がいる。でも全体を視野に入れて総合的に悩むチャンスというのは、あまりないんです」

今では、「4 年間で一番しんどかった」と多くの学生が漏らすという名物課題になっている。

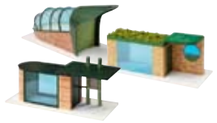
「ボツにめげないようなメンタルを鍛えることが大事ですね。学生が苦労して作り上げた模型を、『こう変えたらいいんじゃないの』と言いながら、僕が躊躇なくカッターナイフで切り刻むんです。学生は泣きそうな顔をするんですが、経験を重ねるごとに頼もしい表情に変わってきますよ」

優しい笑顔の裏に、景観デザインを志す学生たちの成長を本気で思うがゆえの厳しさがある。

研究室の学生たちも関わりながら進めるプロジェクトも数多く、ここ最近では高知県内のバス路線図を一望できるバスマップのデザインに力を入れている。「こうした経験から、プロがデザインする現場に漂う真剣勝負のピリピリした雰囲気を感じ取ってほしい」と言う。

重山先生は知識や技術だけでなく、これまでのデザイナー人生で身につけた心得や価値観も広く学生たちに伝え続けてきた。よりよいデザイン教育の先には、人々の心の拠り所となる日本の美しい風景の未来がある。

高知県内のバス路線図を網羅し、わかりやすくデザインされた「こうちバスマップ」。



**地下駐輪場（本学香美キャンパス内）**
豊かな緑とレンガ造りのキャンパスの雰囲気に合わせて、重山先生がデザイン。デザイン案の模型（右上）は学生たちが制作した。

**景観デザイン演習で学生が制作した模型**
模型とスケッチは景観デザイナーの基本。2〜3年の授業で初心者〜中級者向けの模型とスケッチを学ぶ。

**岸公園に整備された水門（島根県松江市）**
景観を保持する目立たない水門として、今年１月に完成。水門ゲートがうまく隠れるよう設置した管理橋は、隣接する２つの公園を結ぶ遊歩道としても機能している。

システム工学群
## 重山陽一郎 教授
# No.64 YOICHIRO SHIGEYAMA

PROFILE
1987年東京大学工学部土木工学科卒業後、アプル総合計画事務所に就職。景観デザイナーとして、皇居周辺道路の景観整備（東京都千代田区）や門司港周辺の一連の環境整備（福岡県北九州市）など全国各地の現場に携わる。1997年の開学に合わせて本学着任。景観デザイン教育に尽力しながら、景観デザイナーとしても活動。本学キャンパスの景観づくりにも力を発揮する。

### PROFESSOR'S PERSONALITY

Shige

重山先生のブログには、自作の料理がずらりとアップされている。しかも、ゴルゴンゾーラのニョッキや生地から手作りしたピザなど、普通には真似できないような手の込んだ一品ばかり。でも当の先生は「食べたいものをつくっているだけ」とどこまでも自然体。盛りつけも美しく、こんなところにも“デザイナーの力”を感じる。

◀先生お手製のピザ

1 TOPIC

## 今年もこの季節がやってきた！ 第62回よさこい祭り

８月10日（月）・11日（火）の２日間、今年も「高知工科大学よさこい踊り子隊」が土佐の夏の風物詩「よさこい祭り」に参加しました。今年のテーマは「色彩踊菓子（いろどりポップコーン）」。それぞれの彩り豊かな個性を、弾ける演舞で披露したいという思いが込められています。総勢130名の踊り子が、色鮮やかな衣装に身を包み、アップテンポな曲に合わせて躍動感、疾走感あふれる演舞を披露。15の会場で色彩豊かに元気を届けました。見ているだけで楽しくなる演舞は観客を魅了し、多くの喝采をあびました。

今年は曲調や衣装を大幅に変更し、新しい工科大のよさこいに挑戦した年。不安がなかったわけではありませんが、踊り子と裏方、そして参加した教職員が一丸となって乗り越えました。この挑戦ができたのも皆様のご支援があったからこそ。御礼とともに、来年の踊り子隊20周年にむけて、かわらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ことしのテーマは
**色彩和菓子**
いろどりポップコーン

工科大のよさこいは来年で **20** 周年！

### さまざまな会場で演舞を披露しました！

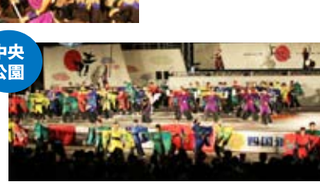
梅ノ辻

追手筋

帯屋町

旭

中央公園



### 代表者よりヒトコト

**松本 貴久美さん** マネジメント学部３年

たくさんの方々に今年の工科大のよさこいを見ていただくことができ、大変嬉しく思っております。皆様のご声援により、カー杯踊りきることができました。衣装チェンジや隊列変化など、新しく取り組んだ点を楽しんでいただけたなら幸いです。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

### 今年は演目の途中で衣装チェンジに挑戦！

シンプルなモノトーンの衣装から…

あざやかな5色の衣装にチェンジ！

## 笑 YOSAKOI SMILE GALLERY

教職員と学生が一緒によさこいを楽しむのも工科大ならでは！
今年は経済・マネジメント学群の坂本先生、永島先生が参加。

YOSAKOI 2015

日頃の研究成果発表ではたくさんの方が
興味を持ってくださいました！

## 2 TOPIC 今年は2キャンパスで同時開催!! KUTオープンキャンパス

７月19日、８月２日の２日間にわたり、オープンキャンパスを開催しました。今年は「未来の自分に逢いにいく。」をテーマに、各研究室の公開、体験授業や実験教室を行ったほか、各種説明会や個別相談コーナーなども設け、本学の多彩な学びや雰囲気を実感していただきました。今年度は本学初の２キャンパス開催となり、進学希望の高校生のほか、ちびっこからご年配の方までのべ約２４００名の方にご来場いただきました。研究室や模擬授業だけでなく、相談コーナーにもたくさんの方が訪れ、受験や大学での生活環境について具体的な質問をする様子が見られました。

ひとあし先に大学の授業を体験した高校生からは、「今日のオープンキャンパスで、見学、体験したことを通じて、大学の魅力がとても感じられ、入学したいという意志が強まりました。勉強をこれからもっと頑張ろうと思いました。」といった感想が寄せられました。

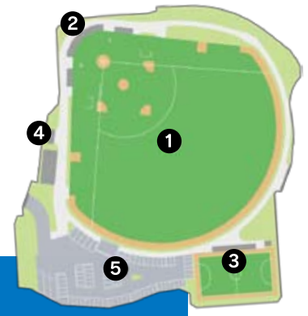
## 3 TOPIC 工科大のスポーツ活動が一層活発に 香美球場が完成しました！

平成 26 年 12 月より建設を進めておりました「香美球場」が完成しました。香美球場は野球場とフットサルコート（１面）からなり、香美キャンパスの南東に歩いて約５分の所に建設しました。しなやかで耐久性が高い最新式の人工芝を使用し、夜間照明も完備。野球場はバックネット裏に簡易な客席を備え、両翼 98m、センター 122m と甲子園球場よりもやや広く、フットサルコートも縦 40m ×横 22m と十分な広さがあり、共に本格的な仕様となっています。

岡村甫前理事長による始球式

８月 18 日にはお披露目式を行い、磯部学長をはじめ本学関係者と工事施工者約 50 人が参加。記念の始球式には東京大学野球部で投手として活躍し、本学野球部の監督も務められた岡村甫 前理事長が登板し、見事な投球を披露されました。

今後とも本学のスポーツ活動へのご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



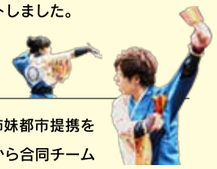

総面積　23,920㎡

❶野球場　13,540㎡　両翼 98m　センター 122m
❷野球場観覧席
❸フットサルコート　1,360㎡　40m× 22m
❹トイレ
❺駐車場

## 電子材料に関する国際会議(E-MRS）にて、山本哲也教授が感謝状を贈呈！

電子材料に関する国際会議 (E-MRS 2015) において、本学 総合研究所 マテリアルデザインセンター長 山本哲也 教授が、本会議の組織委員および若手研究者奨励賞審査委員として、感謝状を贈呈されました。山本哲也教授は「これからの電子材料の発展に貢献する上で、特に若手研究者を鼓舞する役割を担わせていただいたことに、心より感謝しております。」とコメントしました。

## 今年も第24回YOSAKOIソーラン祭りに出場！



本学学生等 12 名が、６月 13 日、14 日の２日間、第 24 回 YOSAKOI ソーラン祭り（参加チーム：約 270 団体、参加者：約 27,000 人）に、「ヤーレンソーラン積丹町＆香美市」チームの一員として、出場しました。

本学のある香美市は、YOSAKOI ソーランが縁で、北海道積丹町と姉妹都市提携を行っており、平成６年から合同チームとして本イベントに連続出場しています。全体練習の時間が少ないながらも、合同チームとして華やかな衣装を身にまとい、“本家高知” の「よさこい」を力一杯踊りきりました。躍動感あふれる演舞に、地元北海道だけでなく、海外からも多数つめかけた観客から、盛んに手拍子や歓声が送られました。

## 新入留学生らが生け花を体験 ー日本文化研修ー

今年４月に入学した留学生８人と日本人学生４人が、６月 21 日、高知県華道協和会の招待を受け、高知市文化プラザ「かるぽーと」で「初夏のいけばな展」に参加しました。本学では、「日本文化研修」として、留学生が日本文化を実際に体験したり、国内の名所を訪問することで、日本について理解を深め、また日本人学生についても留学生と触れ合いながら、改めて日本文化を学んでもらう機会を設けています。当日は、展示会場にて専門家による作品を鑑賞後、高知県華道協和会の先生方の指導のもと生け花を体験。先生方との昼食懇談会においても、覚えたての日本語を使いながら華道の魅力等について談笑するなど、彼らにとって貴重な経験となりました。

## 「STAR'S FESTIVAL IN KUT」を初開催

７月７日、織姫と彦星が出会う七夕の夜に、学生主催によるイベント「STAR’S FESTIVAL IN KUT」が香美キャンパスにて開催され、本学学生のほか、地域の方々約 400 人が参加しました。書道部によるオープニングパフォーマンスに始まり、吹奏楽部 WINDBRASS、ピアノ同好会や JAZZ 研究会による演奏、ジャグリング部の公演が続けて行われました。屋内では Space.Lab 部によるプラネタリウムや手作りキャンドル作り等、様々な催し物が企画され、大盛況のうちに終了しました。

**KUT quarterly NEWS Autumn**

年４回にわたって学生たちが
取り組んでいる様々な活動や、
先生方の研究成果などをご報告！

## 日本学術会議主催の防災に関する「公開講演会」を開催

日本の科学者の内外に対する代表機関である日本学術会議の第三部（理学・工学系）夏季部会が８月 26 日、本学永国寺キャンパスで開催され、同時に市民公開講演会「市民に向けた巨大津波の最先端化学と正しい防災知識」が開催されました。巨大津波に関する科学や日々の防災体制について、各分野を代表する研究者による講演が行われ、日本学術会議会員の 磯部学長がパネルディスカッションの進行をつとめました。「津波災害に正しく備える」をテーマとしたこのパネルディスカッションでは、普段実施されている避難訓練の重要性だけでなく、さまざまな分野の専門家が一丸となって防災、減災に取り組んでいく必要性を説明され、学生や市民、大学関係係者等 150 人を超える参加者は熱心に聴講しました。

## 世界初！ 杉本教授が、3HTと塩化鉄の酸化重合系反応機構を解明！

環境理工学群 杉本 隆一 教授と西郷 和彦 名誉教授が、九州大学の研究グループと共同で、X 線吸収微細構造（XAFS）の測定により、酸化重合の反応機構を世界で初めて明らかにし、安価な塩化鉄を反応に用いても、溶媒を選択することで触媒作用を示すことを見出しました。本研究は学術的のみならず、有機 EL や有機太陽電池への応用等、工業的、さらに社会経済にも大きく貢献するものと期待されています。

## 第66回 四国地区大学総合体育大会　結果報告

５月中旬～７月５日にかけて、愛媛県松山市で開催された「第 66 回 四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）」に、本学体育系クラブの学生 386 名が 25 種目の競技に出場し、熱い戦いを繰り広げました。もはや上位組常連とも言える卓球部が男女ともに優勝の活躍を見せ、ソフトテニス部（男子）、男子バレーボール部、剣道部（男子団体）、弓道部（男子団体）が準優勝するなど、大きく躍進したクラブの活躍も見られた大会でした。

＜総合順位＞
男子総合順位５位（参加 16 大学）
女子総合順位８位（参加 17 大学）

## 第1回食のキャラバンを開催しました

室戸世界ジオパークセンター（室戸市室戸岬町）にて、７月４日、今年度第一回目の「食のキャラバン～救荒植物と食文化観光～」を開催しました。身近な救荒植物を知ってもらおうと、室戸の食文化・救荒植物などについて学んだ後、実際に救荒植物を使った郷土料理を試食し、東寺・新村海岸で自生植物の散策を行いました。小雨の降る天候でしたが、地域の方々を含め約 30 名にご参加いただき、今後の活用について意見交換する場となりました。「食のキャラバン」は、高知市・四万十市などで、今年度は合計４回開催する予定です。

## 国際会議 WorldComp2015で優秀学生論文賞を受賞！

アメリカ合衆国ラスベガスで開催された「コンピュータ科学・工学・応用に関する総合的な国際会議 WorldComp2015」において、宇野 則文 さん（大学院情報システム工学コース 修士課程２年）が『Best Student Paper Award』を受賞しました。

これは、本国際会議における「並列分散処理技術と応用に関する国際会議」において、発表した研究論文が高く評価されたものです。今後の増々の活躍が期待されます。

KUT quarterly
NEWS
Autumn

## 「土佐市エコツアー」に本学 Space.Lab部が参加！

７月 25 日、26 日にかけて、高知県土佐市が主催する 平成 27 年度環境保全促進事業「楽しい夏のこども 土佐市エコツアー」に、本学 Space.Lab 部 の学生が参加しました。本イベントは、土佐市内の小学生とその保護者を対象に地域の自然環境を再認識し、環境について考える機会を設けるためのもので、今回は「自然･環境･エネルギー」をメインテーマに開催されました。25 日は土佐市立波介小学校において、ペットボトルロケットが飛ぶ仕組みについて学んだ後、空気と水の力で飛ぶペットボトルロケットを作り、打ち上げ実験を行いました。26 日には新居コミュニティーセンターで、全国一日照時間が長いといわれる土佐市の太陽光を利用して走る、ソーラーカーを製作。その後､柿並 義宏 助教 から「太陽光発電」に関する講話を、クイズを盛り込みながら行いました。本イベントを通して、参加した子供たちは科学の面白さ、楽しさを体感できた様子で、自然の力に関心を深める有意義な機会となりました。

## 本学講堂にて協働の森フォーラムを開催！

講堂にて「第９回 協働の森フォーラム（主催：高知県､共催:香美市)」が､8 月 29 日に開催されました。今回のフォーラムでは、行政、企業、大学、個人それぞれが「地方創生」にどう関わることができるのか、「森からはじまる地方創生」をテーマに検討が行われました。フォーラムのパネルディスカッションでは、尾﨑 正直 高知県知事とともに、学長特別補佐 那須 清吾 教授も参加し、企業の社会貢献活動の現状と地方創生の動きについて、それぞれの立場での取り組みを発表した後、森林資源に恵まれた高知県ならではの活性化策として、森作りを通した様々な協働により、イノベーションが生み出せないか等、活発な討論が行われました。

## 全国国公立大学卓球大会にて、卓球部が各種目で優勝！

「第 55 回 全国国公立大学卓球大会」が、８月 18 日から 21 日にかけて北九州市立総合体育館で行われ、本学卓球部が女子団体（４連覇）、男子ダブルス、女子ダブルスで優勝しました。男子シングルス部門では、岡本 光市くん（経済・マネジメント学群１年）が初優勝を飾るなど、すべての部門で上位入賞を果たしました。

第 55 回　全国国公立大学卓球大会結果

＜男子＞

| | | |
|---|---|---|
| 団体戦 | 第三位 | 高知工科大学 |
| シングルス | 優勝 | 岡本 光市くん |
| | 第三位 | 明法寺 亮くん |
| ダブルス | 優勝 | 児玉 飛鳥くん |
| | | 福田 知治くん |

＜女子＞

| | | |
|---|---|---|
| 団体戦A | 優勝 | 高知工科大学 |
| シングルス | 準優勝 | 高原 舞さん |
| | 第三位 | 高原 彩さん |
| ダブルス | 優勝 | 高原 舞さん |
| | | 澤本 あずみさん |
| | 準優勝 | 黒飛 めぐみさん |
| | | 濱崎 羅奈さん |
| | 第三位 | 泉 由里奈さん |
| | | 佐藤 静香さん |

## サイクリング部より国体選手に選出！！

７月 19 日、高知県自転車競技連盟が主催する「平成 27 年度 高知県夏季自転車競技選手権大会（国体２次選考会）」が､高知競輪場（高知りょうまスタジアム）で行われ、本学サイクリング部の津村 篤志くん､谷井 勲くん（ともにシステム工学群３年）が、多くの部門で入賞しました。津村くんは出場した全種目において入賞し、高知県代表として国体選手に選ばれました。

## 川原村准教授が「応用物理学会論文奨励賞」を受賞！

システム工学群 川原村 敏幸 准教授が、第 37 回応用物理学会論文奨励賞を受賞しました。この賞は、応用物理学の進歩と向上に貢献すると認められた優秀な若手研究者に贈られる賞で、川原村准教授をはじめとする研究グループが開発を進めてきた「ミスト CVD 法」による機能薄膜成長法に関する一連の研究が評価されたものです。川原村准教授の研究は、今後の半導体・デバイス技術の進展に大いに寄与することか期待されています。

## 地域巡回フォーラムin香川にて、学生2名が発表を行いました

オリンピックに向けた大学の特色を活かした活動や、自治体との連携のあり方についての意見交換などを行う「連携大学地域巡回フォーラム in 香川」（主催：東京オリンピック・パラリンピック組織委員会）が８月６日、香川県高松市で開かれ、本学から遠藤 竣くん と 武島 渓くん（ともに情報学群４年）が参加し、活動報告を行いました。報告では、昨年、情報学群の学生達が開発した龍河洞の外国人観光客向け案内アプリ「Cavigator」（キャビゲーター）を紹介し、これをオリンピック・パラリンピックで訪れる選手や外国人観光客向けにカスタマイズして活用する方法を提案しました。

この提案に対して、オリンピック委員会も、参加国の選手やスタッフの満足度向上につながりそうと期待を寄せていました。

## 中国 昆明理工大学で第5回ISFTを開催しました

第５回フロンティア テクノロジー シンポジウム（The 5th International Symposium on Frontier Technology）が、７月 24 日から 27 日にかけて、中国 昆明理工大学との協働で開催されました。本学からは 磯部 雅彦 学長、渡邊法美 国際交流センター長ら、教職員および学生 16 人が参加しました。特別講演には磯部学長が登壇され、李朝陽 教授（システム工学群）による本学の概要や SSP（博士後期課程特待生制度）の紹介が行われました。また、ISFT の研究セッションでは､篠森敬三 教授（情報学群）､山本真行 教授（システム工学群）、松崎公紀 准教授（情報学群）、井形元彦 教育講師（情報学群）、王大鵬 助教（環境理工学群）らによる最先端の研究発表も行われました。今後も研究成果の発表や意見交換をとおして、参加者同士の国際的な連携、分野を越えた研究交流や、SSP 修了生との交流が深まることで、本学の国際交流も今後さらに広く、深く、活発化することを期待しています。

## YOSAKOI サマースクールで、海外7大学の学生と交流しました

８月４日から 11 日にかけて、「YOSAKOI サマースクール」が、科学技術振興機構（JST）の平成 27 年度 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の支援を受けて実施されました。本プログラムは、本学のグローバル化戦略の一環として平成 24 年度から毎年継続して行われており今年で４回目。国際交流協定締結大学等から学生を招き、様々なプログラムを通して学生同士の交流をはかっています。今回の招待校は、中国の昆明理工大学、韓国の慶南科学技術大学校、台湾の国立虎尾科技大学管理学院、タイのチュラロンコン大学工学部、ミャンマーのヤンゴン大学、モンゴルのモンゴル科学技術大学土木・建築学部、スリランカのモラトワ大学の７大学で、各校２人ずつ、計 14 人が参加しました。本学の学群、学部生および大学院生 20 人もバディとして、海外学生１人につき１、２名ずつ担当を受け持ち、授業だけでなく、文化交流、研修旅行、よさこい祭りへの参加などを通して交流を深めました。

## 喜連川 優 東京大学教授が本学で講演されました

８月 25 日、喜連川 優 教授（国立情報学研究所所長、東京大学教授）の講演会「ビッグデータの時代」が香美キャンパスで行われ、磯部学長をはじめ多数の教職員、学生が参加しました。講演ではアメリカや日本で行われた研究、分析の事例を紹介されるとともに、技術的な方向性や、ビッグデータがもたらす未来についてご教示いただきました。国家的プロジェクトを遂行する機関の所長であると同時に、第一線の研究者でもいらっしゃる同教授のお話とあって、多くの示唆に富んだ大変内容の濃い講演会となりました。

IISUGI teacher
# イイスギセンセイ

Vol.14
Takeo Sato

**先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイスギなくらい語ってもらいました！**

## うわべをとり繕うこと無かれ！

今回言い過ぎる人
### 佐藤 健夫 センセイ（教育講師室 & システム工学群）

今年の本学のよさこい踊り子隊には、130 名近い在学生が参加し、近年では最大規模となりました。帰省の関係で本祭は見られませんでしたが、８月１日の土佐山田祭りでは、一糸乱れぬ迫力のある演舞に感動しました。

スタディスキルズを担当して本年で５年になります。スタディスキルズの目的は、一言で言うと大学での学修に不可欠な主体的学びへの転換です。授業で学ぶだけでなく、自らの興味対象を見つけ、より深く自発的に勉学を追求する姿勢を身につけることです。「メディアリテラシー」というテーマの授業でのことです。授業の狙いは、情報を読み解く力を高めること。「アベノミクス、為替、給与」の関係付けをグループワークで行ったり、新聞紙面を0円で読むことのできるスマホアプリを紹介し、社会の出来事を身近なものとして捉えるようにする演習を行いました。授業後の振り返りシートには8割以上の受講生から、「情報の重要性が理解できた。これからは、毎日ニュースを見ようと思います。」という前向きのコメントが寄せられました。ところが、翌週の授業でどれだけ実行したか確認したところ、残念ながらほんの数名しか手があがりませんでした。

また各回の振り返りでは「楽しい授業でした。学んだことをこれから生かしたいと思います。」というようなコメントが多く寄せられます。とりあえず、これなら評価が悪くならないだろうということで形式的に書いていないでしょうか。

５月にシンガーソングライターの織田哲郎さん（よさこい祭りで審査員特別賞を受賞した 2013 年の楽曲提供者で本学の客員教授）に１年生を対象とした進路ガイダンスで講演いただきました。織田さんは「頑張って困難を乗り越え、達成感が伴った時に本当に楽しかったと思えるのではないか。楽（らく）して楽しいという気持ちにはなれない、皆さんが熱中するゲームだってそうでしょう。」と自らの経験をもとに語ってくれました。このように「楽しい」とは達成感と表裏一体なのです。うわべのコメントではなく、授業に対する課題や要望を素直にぶつけて欲しいと思います。教える側、学ぶ側が互いに切磋琢磨することで授業の質が高まり、真の力がつくのです。

よさこい踊り子隊のように猛暑の中、練習に励み大勢の観客の前で力一杯踊り、やりきったという達成感と、その後に味わう楽しさを「大学の学び」の中でも数多く経験することを期待します。

3代目イイスギジャッジ
高知工科大学　総務部 上田

## 第19回 高知工科大学大学祭

# Flying Fish Festival 2015

ことしのテーマは
**Fanfare**
ファンファーレ

**October 10.** 17 SAT. 10:00-19:00 / 18 SUN. 10:00-19:00

### EVENTS
- 学生団体の発表・展示
- 模擬店
- フリーマーケット
- 救急防災フェア
- 献血＆骨髄バンク
- ドナー登録会
- エイズ・感染症予防キャンペーン

### STAGE EVENTS
- アーティストライブ in KUT
- 山田太鼓演奏
- ビンゴ!豪華賞品を手に入れるのは誰だ!?
- よしもとお笑いライブ
- アムレストーナメント
- Ms. Mr. 工科大　他

最高に華やかな時間をお届けします！

詳しい情報はホームページで随時更新中

いますぐ検索!!! 高知工科大学 学祭 検索

同時開催

主催 香美市商工会・刃物まつり実行委員会

入場無料

## 『刃物まつり＆山田のかかしコンテスト』

【日時】10月17日(土)、18日(日)10:00～17:00【場所】工科大となり鏡野公園

# KUT 学生特派員報告 REPORT 24

## 工科大寮の利用者にインタビュー！

6代目特派員 左から順に　福田 龍星（マネジメント学部2年）橋本 政明（情報学群2年）
山口 智大（情報学群2年）

### NEW! たかそね寮

永国寺キャンパスの学生向けに新築された、シェアハウスタイプの寮。3階建ての男子寮、女子寮がそれぞれ1棟ずつあり、各階の入口は独立している。各階に共用のリビング、キッチン、バスルームなどがある。

マネジメント学部３年　**清水 優子** さん

**Q シェアハウスの良いところは？**

**A.** 私のフロアには3人の先輩がいるので、料理のコツや生活の知恵など色々と教えてもらっていて、先輩スゴイ！…ということが沢山あります。たまにご飯のお裾分けをしあったりして、他のご家庭の味付けを知れたりということも。各地域の味覚も楽しめますよ（笑）。他には、何かおめでたいことがあったら、皆でお祝いをしたりしています。今年の誕生日に、私がまだ一人リビングにいるのに電気が消えたので不思議に思っていたら、皆さんが部屋からケーキを持って出てきてくださいました。よく見ると「おめでとう」の文字も飾ってあって、手のこんだサプライズパーティに感動しました。こういった、シェアハウスならではのエピソードも沢山あります。最初はそれぞれのライフスタイルの違いに戸惑を感じることもありましたが、今では自分の尺度とは違う目線で物事を考えられるようになりました。個室があってプライバシーは保たれているし、何より他の人と関わりながら生活するのはとてもいい経験だと思います。一人暮らしのようでそうでない楽しさがありますね。最初はシェアハウスと聞くとテレビ番組のようなイメージがあって、自分には合わないかなと思っていたのですが、良い意味で全然違いました（笑）

NEW! 香美キャンパス敷地内には、たかそね寮と同じシェアタイプの香美寮（女子寮）もあります。（平成 27 年 4 月新設）。

### ドミトリー

開学時からある最も歴史のある寮。大学敷地内にあり、原則１年生男子のみが入寮できる（女子は新設された香美寮に入寮）。寮生の生活をサポートする役割の上級生（フロアリーダー）が２フロアに１人配置されている。

情報学群１年　**河島 尚輝** さん

**Q ドミトリーでの暮らしはどうですか？**

**A.** 共用の掃除機や洗濯機などもあって、必要な設備は大体備わっているので、自分の荷物だけ持って入居しても、特に困ることはありませんでした。部屋にはユニットバス、ネット回線なども設備もあるので、パソコンをしたり本を読んだり、普通の一人暮らしの部屋と変わらない感じで過ごせますね。大学の敷地内にあるので、講義の時間が空いたら戻って休んだり、次の授業の準備をしたりできるので何かと便利です。時間があくと、大体同じドミトリーの友達と部屋や談話室で話したり、一緒に課題をやったりなど、とにかく人といることが多いです。みんな同じ環境に身をおいているおかげかすぐに仲良くなれますし、学群を越えた友人や先輩がたくさんできました。コミュニケーションをとりやすい環境なので、ちょっとした相談なんかもすぐにできて大変助かっています。日用品の買い出しやたまの外食には学内のレンタルサイクル（通称：ドミチャ）を使っていて、お店までは少し離れていますが慣れれば気にならないです（笑）。ドミトリーだと経済的にも助かるうえに、大学生活にも馴染みやすいので入って良かったなと思います。

### インターナショナルハウス（国際交流会館）

留学生と日本人学生が交流しながら生活する学生寮（平成２５年完成）。異なる文化背景を持つ学生同士の相互交流、相互理解の促進をはかるため、交流ホールや文化交流のための茶室などのレクリエーションスペースも備える。

システム工学群１年　**田頭 侑貴** さん

**Q 交流会館ではどんな交流がありますか？**

**A.** 共同キッチンやリビングで留学生と顔を合わせた時、何か話題を見つけて話しかけるようにしています。そうして何度か挨拶を交わしているうちに、留学生との会話が自然と生まれるようになりました。雑談を交えながらの食事や、リビングで留学生と肩を並べてテレビ観賞することも多いですね。他にも、寮生同士で誘い合って学内のレンタサイクルで一緒に買い物に行ったりもしています。留学生との交流イベントも開催されるので、イベントを通して留学生と交流が深まることもあります。先日も、タイのお正月（ソンクラーン）を留学生と一緒にお祝いしました。気軽に話せる雰囲気の方達ばかりなので、留学生も日本人とも学年に関係なく、密な交流ができていると感じています。

### ジッカン note

**福田**　寮生活をしたことがないのでとても興味深かったです。一口に寮といっても色々な特徴があるのに驚きました。

**橋本**　寮での生活は友達作りの良いきっかけになると思うので、ぜひ活用してもらいたいです！！

**山口**　フロアリーダーとしてドミトリーに住んでいますが、立場が違うと視点も異なるのを興味深く感じました。

まちのKUT応援団

# がんばっちゅうネ！工科大

Machi no KUT Ouen-Dan INTERVIEW

18

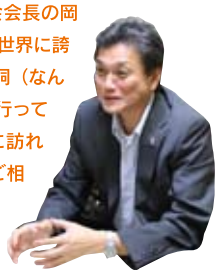
# 工科大生の若いパワーとアイデアに期待

今回のインタビュアー

研究連携部長

## 長山 哲雄

今回インタビューするのは、龍河洞保存会会長の岡崎淳一さんです。龍河洞といえば高知県が世界に誇る観光名所。龍河洞保存会は昭和６年の開洞（なんと８４年前）から、龍河洞の維持、管理を行っておられます。岡崎会長とは、昨年、観光に訪れる外国人観光客の案内に困っておられ、ご相談をいただいたのがお付き合いのきっかけでした。そのときのお話を中心に、工科大のご近所さんとして、大学の印象などを伺ってきました。



―― 龍河洞保存会には長い歴史がおありですが、工科大との関わりはいつくらいからでしょうか。

**もう 10 年くらい前ですかね。工科大の先生の呼びかけで、龍河洞活性化会議というのをやってもらいましてね。その一環で、牧野植物園の先生と一緒に、工科大から龍河洞の間を珍しい植物を探しながら歩く、といったこともしました。思いのほか貴重な植物が沢山みつかって驚いたのを憶えています。表まで作ってもらって、最近まで入り口に飾っていたんですよ。**

―― そんなこともあったのですね。私と岡崎さんが初めてお会いしたのは、昨年９月の「外国人観光客向け案内アプリ”Cavigator”（キャビゲーター）」開発のときでしたね。

**Cavigator には本当に助けられています。去年あたりから外国人の方が増え、色々な国からいらっしゃるし、また個人旅行なので通訳の方もいない。せっかく来てもらったのに龍河洞の魅力を伝えられず、残念に思っていました。外国語で案内する機械は購入費用が高かったり、使い勝手が悪かったりで導入できなかったんですが、Cavigator は自分のスマートフォンを使うので機械の費用がいらないし手軽。まさに画期的でした。**

龍河洞内部

龍河洞は日本三大鍾乳洞の１つに数えられる。

外国人観光客向け案内アプリ「キャビゲーター」

龍河洞内 33か所の案内ポイントを写真に加え、英語、北京語、台湾語、韓国語での文字表記や本学の外国人留学生がナレーションを務めた音声で鍾乳石の成り立ちなどを説明するもの。

―― 我々も、香美市と大学の連絡協議会で相談をうけて方法を検討し、結果、学生の成長に繋げられたらという思いもあり、授業の一環として開発することになりました。不安もおありだったかもしれませんが。

**先生がついてくださるので、そこは安心してました（笑）。が、実際には学生さん達だけで製作したと聞いて驚きました。完成度もそうですが、開発・維持のコストなどの収益面もきちんと考えられていたのも驚きです。**

―― ありがとうございます。Cavigator は他の施設や自治体からも使いたいという問合せがどんどんきています。今回の件は、大学の専門性を活かした地域貢献のモデルケースの一つかと思っていますが、岡崎さんからみた工科大や学生のイメージはどうでしょうか。

**勉強・研究ばかりでなく、地域に関わっていこう！という校風があるのかなと思います。積極的にイベントに参加してくれる学生さんも多いし、皆さん話しやすくて身近な感じがします。クリスマスキャンドルナイトという洞内にキャンドルを飾ってもらうイベントでは、毎年、学生団体さんがおもしろいアイデアを出してくれていることもあって、大変好評を博しています。やはり大学生のパワーというか、若い力と若者ならではの発想を感じますね。今後もぜひ盛り上げていただきたいです。**

―― 学校の近くにこんなに歴史のある施設があって、そこで色々なことに携わらせてもらえるのは、学生達にもすごく良い経験になっていると思います。

**工科大はご近所にある貴重な大学ですし、共によい影響を与え合いながら、歴史を刻んでいけたらいいですね。**

龍河洞保存会会長

## 岡崎淳一さん

応援団員

18

### インタビューを終えて

インタビュー中、岡崎会長はずっと工科大と学生のことを褒めてくださっていました。今回のインタビューを通して、先生方や学生の皆さんが地元の方との絆を脈々と作ってきてくださったことがわかり、そこに少しでも加われたことを誇らしく思いました。今後も大学に課せられた使命を忘れず、工科大らしい地域貢献を考えて行きたいと思います。

FLYINGFISH AUTUMN 2015 No.64

http://www.kochi-tech.ac.jp/

発行 / 高知県公立大学法人 高知工科大学 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185 TEL：0887-53-1111 FAX：0887-57-2000 E-mail：kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp 発行日 / 2015年９月30日